

令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会

公益社団法人中央畜産会が主催する、令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会が、令和7年11月28日に都市センターホテル（東京都千代田区）を会場に開催されました。

全国から推薦された事例の中から8事例が全国発表事例に選定され、当協会が推薦した八幡平市の酪農経営「藤田貴良さん、麻奈美さん」が事例を発表し、厳正な審査の結果、最優秀賞を受賞しました。

藤田貴良さんは、地元農協で畜産指導員・酪農ヘルパーとして10年間勤務したのち、「自分で考え、酪農の可能性を追求したい」との思いから、平成16年に就農しました。以降、自給飼料不足を避けるため、牛舎増築、増頭に併せて草地基盤拡大を進め、現在は、タイストール牛舎で経産牛頭数約110頭を家族主体で経営するメガファームとなりました。

藤田さんの経営の特徴は、草地面積90haの計画的な更新による単収の向上とともに、大型機械を早期に導入し、適期収穫を行い良質な粗飼料生産に努めていること、地域のキャトルセンターを活用した省力化と、徹底した衛生管理による高品質な生乳生産が地域連携と両立している点など、全国の酪農経営のモデルとなりうる事例として高く評価されました。

受賞された藤田さんからは、「これまで、理想の酪農を追い続けてきましたが、この発表を節目に、今後は未来の担い手である子供たちの意見を尊重し、寄り添いながら、一歩一歩前進したい」との力強いコメントがありました。

なお、本発表会は農林水産祭参加行事であり、令和8年度の天皇杯、内閣総理大臣賞の候補事例として選定されました。

また、本発表会の様子について、アーカイブ配信もございます。

(外部リンク：[公益社団法人中央畜産会ホームページ](#))

